



2021年度公立高校入試 「全国傾向」

教科	今年の入試の特徴	難易度(昨年と比較)	その他注目したい点
数学	三平方の定理の活用を避けた影響か、2次関数と図形を絡めた問題の出題が急増。日常生活をベースにした問題はシンプルな良問が見られた。	出題範囲に制限があった入試も多く、全体的に無難にまとめられたため、特に大きな変化なし。	データの活用(代表値・確率)は思考力問題への発展が顕著で情報整理力が必要。関数の文章題は長文化に歯止めがかかり、状況整理や場合分けが必要な問題も多く見られるように。
英語	時事(レジ袋有料化)、新教科書(防災)、SDGs(環境問題)など最新テーマに関する英文読解・英作文が目白押し。読解力重視傾向がさらに強まった印象。	出題傾向が大きく変わった入試は少なく、難易度は例年通り。リスニングは難化が進んでいる。	共通テストの影響もあり、日常生活で目にする図や表などの資料を読み取る問題が充実。情報量が多く、計算や状況把握が必要な問題も増えてきた。共通テストの出題傾向は要注目。
国語	出題が増えていた資料要約系作文が減り、従来型の意見作文が出題のメインに。九州のみ依然として資料が主流。	特に大きな変化なし。	メモやノート形式で内容を整理する出題は定番化。全国的に漢字の読み書きや言語事項はやや難化傾向にあり、語彙力を重視する動きが強まっている。
理科	中3内容の出題を控える動きから、中2内容からの出題が目立った。完答で正解になる問題や正しい組み合わせの選択肢を選ぶ問題は、もはや定番に。	全国的に知識重視の傾向が進んでいるが、難易度は県によって大きく異なる。出題単位による平均点の変動も大きい。	半数近い県で総ページ数が10ページ以上となり、長文化の勢いが加速。実験・観察の過程や考察を書かせる記述問題や、地学の計算問題は難化傾向が続いている。
社会	東日本を中心にオーストラリア関連の問題が一気に増加。課題解決の視点に繋がる記述問題は解答の自由度が高いものも多く、年々難化が進んでいる。	資料の増加や、歴史の近現代史重視傾向もあり、少しずつ全体的な難易度は上がっている。	扱うテーマには数年ごとに流行があるため、時事や新教科書の内容を反映した題材には注意が必要。複数の資料や文章の比較が必要な問題も多く、処理力も重要になってきている。